

平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象 小学校6年生、中学校3年生

3 実施日 2019年4月18日(木)

4 調査内容

- 教科に関する調査「国語、算数・数学、英語(中学校)」
(昨年度までは国語・算数・数学は「主として『知識』に関する問題」【A問題】、「主として活用に関する問題」【B問題】に分けられていたが、2019年度からは【A問題】と【B問題】を一体的に問う問題形式に変更して実施)
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ◆児童・生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ◆学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 学力調査結果

(1) 教科別平均正答率

【小学校】

		国語	算数
平均 正答率	町田市	62.0	67.0
	東京都	65.0	70.0
	全国	63.8	66.6
割合 ※1	町田市	97	100
	東京都	102	105

○国語は、全国との比較では1.8ポイント、東京都との比較では3ポイント下回っている。
○算数は、全国を0.4ポイント上回っているが、東京都より3ポイント下回っている。

【中学校】

		国語	数学	英語※2
平均 正答率	町田市	74.0	60.0	58.0
	東京都	74.0	62.0	59.0
	全国	72.8	59.8	56.0
割合 ※1	町田市	102	100	104
	東京都	102	104	105

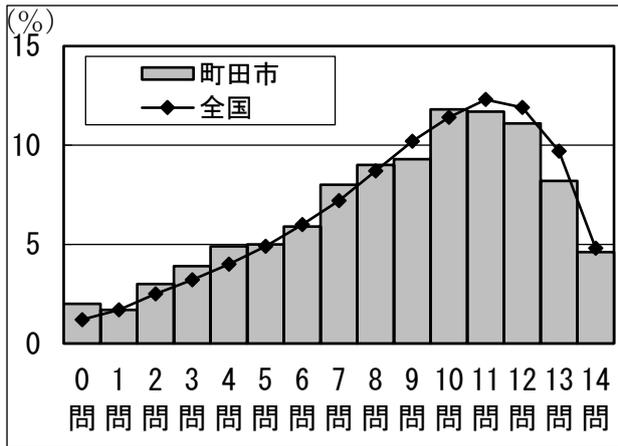
○国語は、全国との比較では1.2ポイント上回り、東京都とは同じである。
○数学は、全国を0.2ポイント上回っているが、東京都より2ポイント下回っている。
○英語は、全国より2ポイント上回り、東京都より1ポイント下回っている。

※1 全国を100とした時の割合

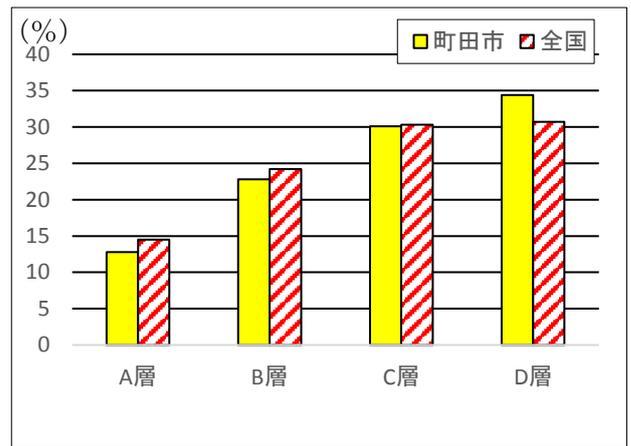
※2 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。「話すこと」は参考実施のため、集計から除外。

(2) 小学校国語の調査結果

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】※



【観点別の平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

観点	問題数	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
	14	62.0	63.8
話す・聞く能力	3	68.7	72.3
書くこと	3	53.1	54.5
読むこと	3	80.5	81.7
言語についての知識・理解・技能	5	50.9	53.5

【問題ごとの平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
1ー	図表やグラフなどを用いた目的を捉える	71.0	71.2
1二	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える	60.3	63.4
1三	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	28.2	28.8
1四(1)ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	34.5	41.9
1四(1)イ		67.9	69.4
1四(1)ウ		34.3	35.6
1四(2)	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く	47.4	47.8
2ー(1)	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む	80.9	80.7
2ー(2)		74.0	75.9
2二	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む	86.6	88.5
3ー	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする	80.2	81.3
3二	目的に応じて、質問を工夫する	65.7	67.4
3三	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	60.2	68.2
3四	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる	70.4	73.0

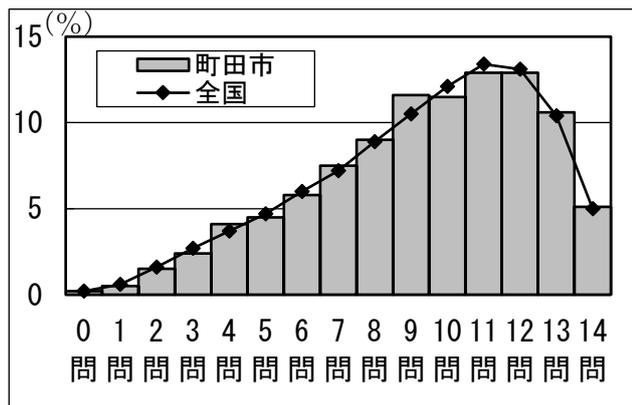
【分析(○)と授業改善のポイント(●)】

- 四分位の正答数内訳ではD層の割合が全国よりも多い。
- 観点別の平均正答率では、「話す・聞く能力」が全国より3ポイント以上低い。
- 問題別では情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることが全国より3ポイント以上低い。
- 収集した情報の中から必要な内容を整理して書くことや目的を明確にして情報を関係付けながら聞き、自分の考えをまとめるなどの指導を充実する必要がある。

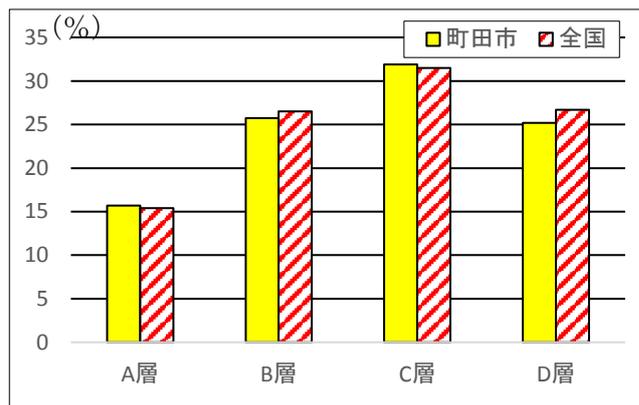
※四分位の正答数内訳とは 各層は、調査者を正答数の多い順に整理し、推計した人数比率により25%刻みで4つの層分けを行ったものであり、それぞれの正答数における割合について、上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称したものである。

(3) 小学校算数の調査結果

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

観点	問題数	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
	14	67.0	66.6
数学的な考え方	8	62.9	62.2
数量や図形についての技能	4	72.4	73.6
数量や図形についての知識・理解	2	70.2	70.1

【問題ごとの平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

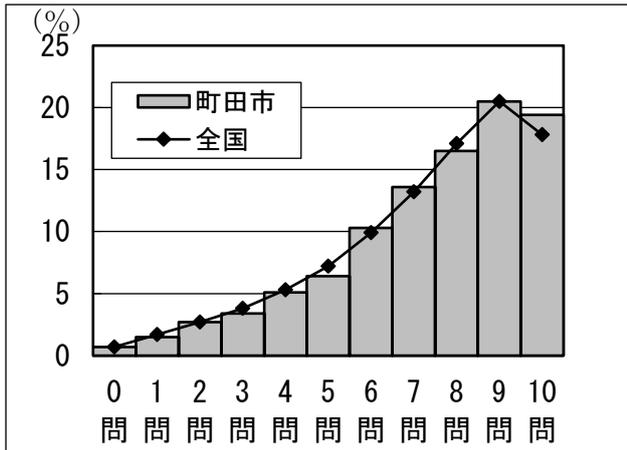
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
1 (1)	台形について理解している	93.1	93.1
1 (2)	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる	58.8	60.3
1 (3)	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	45.9	43.9
2 (1)	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる	94.8	95.2
2 (2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる	78.5	78.6
2 (3)	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる	54.5	52.1
2 (4)	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	57.4	60.1
3 (1)	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる	81.3	81.8
3 (2)	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	29.7	31.1
3 (3)	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる	72.3	74.9
3 (4)	示された除法の式の意味を理解している	47.4	47.0
4 (1)	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる	85.3	82.7
4 (2)	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる	☆72.8	68.6
4 (3)	場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる	61.2	62.6

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

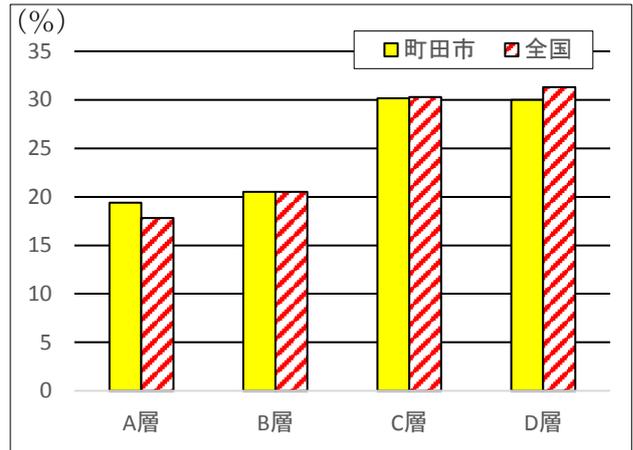
- 四分位の正答数内訳ではD層の割合が全国よりも少ない。
- 問題別では示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することについては全国より3ポイント以上高い。示された図形の面積や計算の仕方を解釈して、求め方などの説明を記述することや資料から必要な情報を取り出し、関連付けて理由を記述することには課題がある。
- 資料等から必要な情報を取り出し、取り出した情報を比較したり、関連付けたりしながら数学的に判断して説明を記述するなどの指導を充実する必要がある。

(4) 中学校国語の調査結果

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

観点	問題数	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
	10	74.0	72.8
話す・聞く能力	3	71.7	70.2
書くこと	2	81.6	82.6
読む能力	3	73.2	72.2
言語についての知識・理解・技能	2	69.4	67.7

【問題ごとの平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

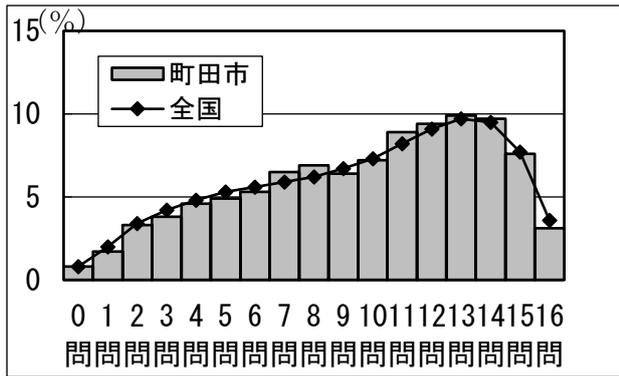
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
1一	文章の構成や展開, 表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ	66.0	63.9
1二	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	62.9	61.5
1三	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ	90.7	91.2
1四	封筒の書き方を理解して書く	58.4	56.8
2一	話合いの話題や方向を捉える	82.1	80.4
2二	相手に分かりやすく伝わる表現について理解する	71.0	69.7
2三	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	61.9	60.4
3一	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	87.5	87.4
3二	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	75.7	77.8
4	語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する	80.4	78.7

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

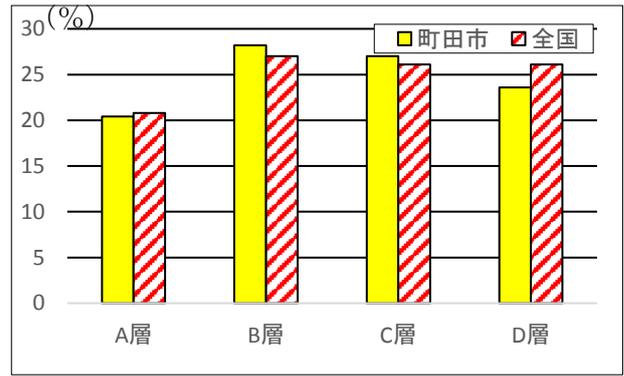
- 四分位の正答数内訳では A 層の割合が全国よりも多い。
- 観点別では「書くこと」以外は全国よりも平均正答率が高い。
- 問題別では 10 問中 8 問は全国よりも平均正答率が高い。封筒の書き方を理解して書くことに課題がある。
- 授業改善のポイントとして手紙の基本的な形式を理解させ、文字の大きさや配列に注意して書く指導を充実する必要がある。

(5) 中学校数学の調査結果

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

観点	問題数	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
	16	60.0	59.8
数学的な見方や考え方	8	51.3	51.0
数学的な技能	3	64.5	63.9
数量や図形などについての知識・理解	5	72.1	71.3

【問題ごとの平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

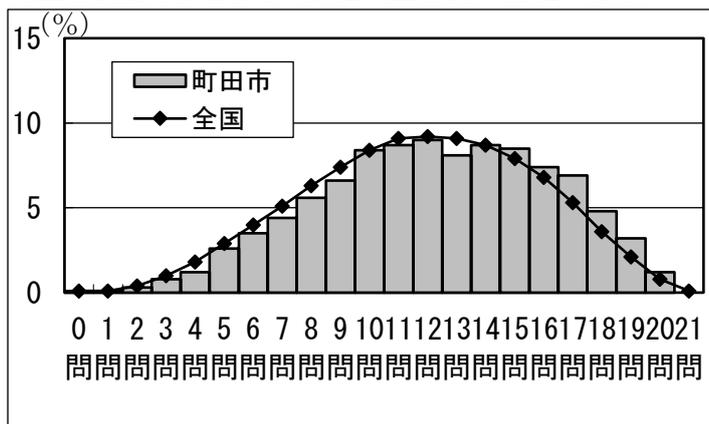
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
1	数の集合と四則計算の可能性について理解している	62.0	62.2
2	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	72.6	70.1
3	平行移動の意味を理解している	84.4	83.6
4	反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる	46.4	48.9
5	簡単な場合について、確率を求めることができる	74.6	72.8
6 (1)	グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる	38.9	38.8
6 (2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	32.8	34.7
7 (1)	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	☆79.7	75.8
7 (2)	反例の意味を理解している	78.5	77.2
7 (3)	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	☆56.4	53.3
8 (1)	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる	55.7	57.9
8 (2)	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	38.3	40.8
8 (3)	問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる	53.8	53.6
9 (1)	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	59.1	57.4
9 (2)	事柄が成り立つ理由を説明することができる	61.1	59.7
9 (3)	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる	70.4	69.6

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

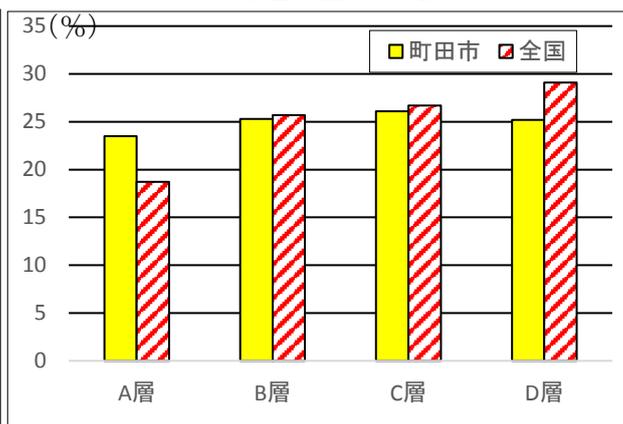
- 四分位の正答数内訳ではD層の割合が全国よりも少ない。
- 観点別では全ての項目で全国よりも平均正答率が高い
- 問題別では証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することや結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することは全国よりも3ポイント以上高い。
- 必要な情報を正確に取り出し、取り出した情報を比較・関連付けて読み取り、数学的に説明する指導を充実する必要がある。

(6) 中学校英語の調査結果

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

観点	問題数	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
	21	58.0	56.0
外国語表現の能力	1	1.4	1.8
外国語理解の能力	6	47.2	44.7
言語や文化についての知識・理解	14	67.2	64.7

【問題ごとの平均正答率】※全国との比較で3ポイント以上の差があるもの ☆プラス 色付きマイナス

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		町田市	全国
1(1)	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	93.4	91.1
1(2)	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	90.7	88.6
1(3)	日常的話題について、情報を正確に聞き取ることができる	72.0	72.3
1(4)		64.5	61.8
2	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	☆74.9	71.8
3	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	☆85.1	82.0
4	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	9.3	7.6
5(1)	日常的話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	☆84.3	79.4
5(2)	日常的話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	75.8	74.4
5(3)		☆76.3	73.1
6	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる	65.2	62.9
7	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる	☆37.1	32.8
8	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる	11.9	10.9
9(1)①	文の中で適切に接続詞を用いることができる	80.4	79.9
9(1)②		57.4	58.2
9(2)①	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる	☆77.7	73.6
9(2)②	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる	☆31.9	28.9
9(3)①	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	53.9	53.5
9(3)②	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	☆40.6	32.9
9(3)③	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる	☆41.9	37.4
10	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる	1.4	1.8

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

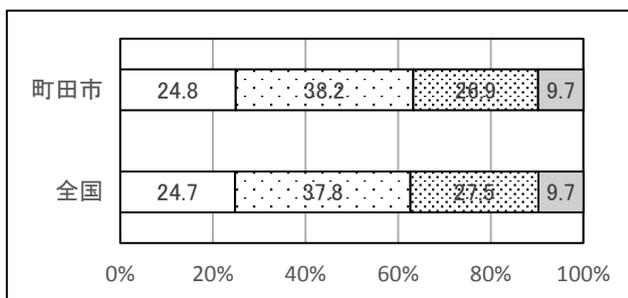
- 四分位の正答数内訳では A 層の割合が全国よりも多い。
- 観点別では外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解は、全国よりも平均正答率が高い。
- 問題別では英語を聞いて話の概要や必要な情報を理解すること、日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたもの内容を正確に読み取ることなどについては全国よりも平均正答率が高い。
- 聞くだけにとどめず、把握した内容に適切に応じること、読むだけにとどめず、読んだ内容について、自分の考えを整理して述べるができるようにするなど指導の充実が必要である。

6 児童生徒質問紙調査結果

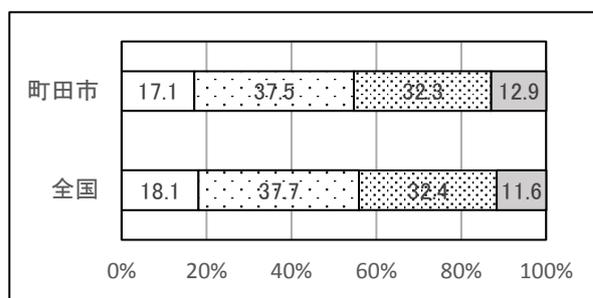
(1) 授業では、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していましたか。

※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の順に並んでいる。

【小学校】

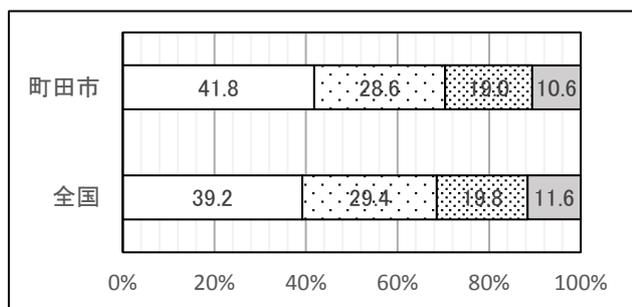


【中学校】



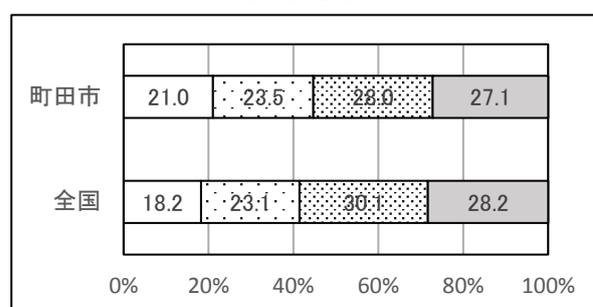
(2) 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか。

【小学校】



(3) あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。

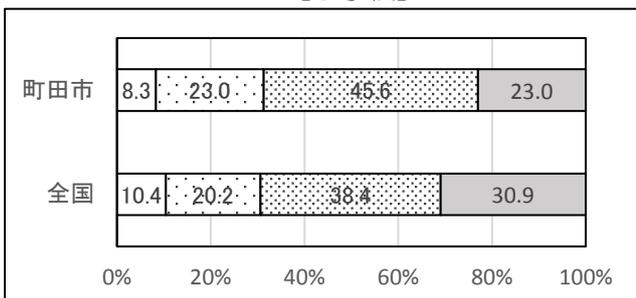
【中学校】



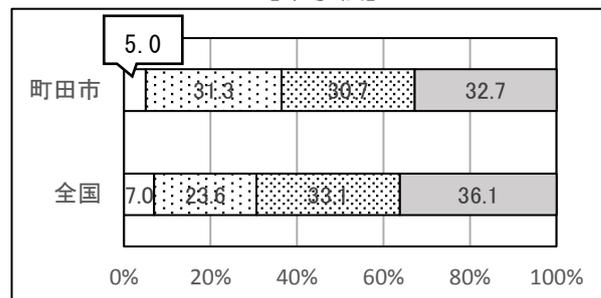
(4) 5年生まで（小学校）に受けた授業（中学校は1、2年生）で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。

※左から児童・生徒の回答内容「ほぼ毎日」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】



【分析（○）と今後について（●）】

○①の自分の考えを発表する機会については肯定的な回答をしている児童生徒は肯定的な回答をした小学校の児童は63%、中学校の生徒は54.6%である。

②③の外国語に関する設問では、肯定的な回答が全国よりも上回っている。

④のICT教育に関する設問でも使用頻度は全国よりも上回っている。

●①について、肯定的な回答を増やしていくために授業における自分の考えを発表する機会を増やすなど指導の工夫が必要である。

②③④ともにえいごのまちだ事業やICT教育の推進の成果の一つと捉えることができる。今後もさらなる推進を図っていく。

7 調査結果分析に基づく町田市教育委員会の取組

- (1) 学力向上検討委員会にて小学校国語・算数、中学校国語・数学の授業改善のポイントを踏まえた指導内容・方法の検討を行い、各教科の授業改善に活かせる授業力向上推進リーフレットを作成し、各学校に配布する。
- (2) えいごのまちだ推進委員会にて中学校英語科の授業改善のポイントを踏まえた指導内容・方法の検討を行い、指導の重点ポイントとしてまとめ、「NEWS えいごのまちだ」で各学校に周知する。また、英語教育推進リーダー等の公開授業の中でも取り上げ、より良い英語授業の実践を広めていく。
- (3) 学力向上推進プラン（第3次）の授業をデザインする8つの取組の中で授業改善のポイントを踏まえた場面を意図的・計画的に設定することを教務主任会や研究主任会、若手教員育成研修等で周知していく。
- (4) ICT機器の活用については、全校へのクロームブックの配備が途中段階であるが、今後、全校配備に向けて、児童生徒にどのように活用を図っていくのかを、各学校で計画していくよう、校長会や教務主任会等で周知していく。また、2019年度中に、クロームブックの活用事例集を作成し、全校に配信する。